

プロジェクト研究「公共事業の総合コスト縮減効果評価・管理手法の開発」

目次

序 章 研究の概要

序-1 概要	1
序-2 研究フロー	5

第1章 研究課題

1.1 総合コスト縮減効果の評価手法とその課題	1-1
1.2 社会的コストの貨幣価値計測手法の課題	1-1
1.2.1 貨幣価値計測手法の概要	1-1
1.2.2 貨幣価値計測手法の選定方法	1-7
1.2.3 各種マニュアルにおける原単位作成方法	1-8
1.2.4 既存の貨幣価値計測手法の課題	1-9
1.3 研究課題のまとめ	1-9

第2章 社会的コストのデータベース構築

2.1 社会的コストデータベース構築の目的	2-1
2.1.1 目的	2-1
2.1.2 必要情報の検討	2-1
2.2 既存の社会的コストの計測事例収集	2-4
2.2.1 計測事例の目的	2-4
2.2.2 計測事例の調査時期	2-4
2.2.3 計測事例の計測手法	2-4
2.2.4 計測事例の調査対象財による分類	2-5
2.2.5 計測事例の機能による分類	2-7
2.3 社会的コストデータベース	2-9
2.3.1 データベースのフォーマット	2-9
2.3.2 データベース	2-9
2.3.3 文献リスト	2-9

第3章 AHPを活用した原単位作成手法（2種類）の提案

3.1 AHPを活用した原単位作成手法の検討目的	3-1
3.1.1 目的及び検討の着眼点	3-1
3.1.2 AHPの概要	3-1
3.2 計測事例を活用したAHP手法の提案（案1）	3-2
3.2.1 手法のモデル化	3-2
3.2.2 貨幣価値が既知の代替案があるケース	3-2
3.2.3 比較可能な環境財があるケース	3-6
3.3 CVMを活用したAHP手法の提案（案2）	3-10
3.3.1 手法のモデル化	3-10

第4章 社会的コストデータベースを活用した原単位作成《試行①》

4.1 試行の概要	4-1
4.2 BOD改善度の原単位作成	4-1
4.2.1 貨幣価値計測事例	4-1

4.2.2 原単位の作成	4-2
4.3 COD改善度の原単位作成	4-3
4.3.1 貨幣価値計測事例	4-3
4.3.2 原単位の作成	4-4
4.4 草原・牧場の保全価値等の原単位作成	4-5
4.4.1 貨幣価値計測事例	4-5
4.4.2 原単位の作成	4-6
4.5 バリアフリー化の原単位作成	4-7
4.5.1 貨幣価値計測事例	4-7
4.5.2 原単位の作成	4-7

第5章 計測事例を活用したAHP手法《試行②》

(ケーススタディ：工事の騒音・振動低減コスト)

5.1 試行の概要	5-1
5.2 主な技術的課題とその対応策	5-2
5.2.1 要素間のペア比較不可への対応	5-2
5.3 階層構造の設定	5-2
5.4 アンケート調査票の作成	5-4
5.4.1 工事騒音及び自動車騒音の提示	5-4
5.4.2 工事振動の提示	5-5
5.4.3 工事期間の提示	5-5
5.4.4 ペア比較	5-5
5.4.5 プレ調査の実施	5-6
5.4.6 アンケート調査票の構成	5-7
5.5 原単位の作成	5-8
5.5.1 有効票の抽出	5-8
5.5.2 代替案別の貨幣価値の算定	5-8
5.5.3 原単位の作成	5-9
5.5.4 より活用しやすい原単位への修正	5-10

第6章 CVMとの併用によるAHP手法《試行③-1》

(ケーススタディ：工事中の騒音・振動低減コスト)

6.1 試行の概要	6-1
6.2 主な技術的課題とその対応策	6-2
6.2.1 CVMへの抵抗抑制	6-2
6.2.2 総合評価値の安定	6-2
6.2.3 工事期間の設定	6-4
6.2.4 要素間のペア比較不可への対応	6-4
6.3 階層構造の設定	6-4
6.4 アンケート調査票の作成	6-6
6.4.1 工事騒音、工事振動、工事期間の提示	6-6
6.4.2 ペア比較	6-6
6.4.3 CVM調査	6-7
6.4.4 プレ調査の実施	6-8
6.4.5 アンケート調査票の構成	6-11
6.5 原単位の作成	6-11
6.5.1 有効票の抽出	6-11
6.5.2 AHPによる総合評価値の算定	6-12

6.5.3 CVMによるWTPの算定	6-12
6.5.4 原単位の作成	6-13
6.5.5 より活用しやすい原単位への修正	6-14

第7章 CVMとの併用によるAHP手法《試行③-2》

(ケーススタディ：工事中の歩道空間改善コスト)

7.1 試行の概要	7-1
7.2 主な技術的課題とその対応策	7-1
7.2.1 CVMへの抵抗抑制	7-1
7.2.2 総合評価値の安定	7-1
7.2.3 規制期間の設定	7-3
7.3 階層構造の設定	7-3
7.4 アンケート調査票の作成	7-5
7.4.1 歩道空間の提示	7-5
7.4.2 ペア比較	7-5
7.4.3 CVM調査	7-7
7.4.4 プレ調査の実施	7-8
7.4.5 アンケート調査票の構成	7-8
7.5 原単位の作成	7-9
7.5.1 有効票の抽出	7-9
7.5.2 AHPによる総合評価値の算定	7-10
7.5.3 CVMによるWTPの算定	7-11
7.5.4 原単位の作成	7-12
7.5.5 より活用しやすい原単位への修正	7-13

第8章 AHPを活用した原単位作成手法（2種類）の試行結果検証

8.1 工事の騒音・振動	8-1
8.1.1 比較ケースの設定	8-1
8.1.2 貨幣価値の比較	8-1
8.1.3 自動車騒音の貨幣価値原単位との比較検証	8-2
8.2 工事中の歩行空間	8-3

第9章 社会的コストの原単位作成手法の評価・課題

9.1 社会的コストデータベースの評価・課題	9-1
9.1.1 評価	9-1
9.1.2 課題	9-1
9.2 AHPを活用した原単位作成手法（2種類）の評価・課題	9-2
9.2.1 評価	9-2
9.2.2 課題	9-3
9.3 今後に向けて	9-3

参考資料 コンジョイント分析による原単位作成

参考文献一覧

社会的コストデータベース

データベース

引用文献一覧